

絵本イラスト20場面 (資料2-2)

- ① むかし、宇部の中心地は遠浅の海でした。
海岸近くには、おおむかしから人々が生活していた跡が残っています。
川に沿った地域ではお米をつくるのが始まり、たくさんの貝などを捨てた北迫貝塚があります。
- ② 長門地域の宇部を支配した厚東氏は、神社やお寺を建てたり、京の都の影響を受けてつくった庭は、海の干満を表すつくりがしてあります。
この「龍心庭」は、山口県で一番古く国の名勝となっています。
厚東氏は周防の有力な大内氏と度々戦い、ついに領地を奪われました。
- ③ 海のそばでは、塩をつくっていた所もあり、塩田川、塩屋台などの地名として残っています。やがて、海の沖に細長く広がる砂の山ができ、「沖ノ山」と呼ばれるようになりました。のちに白い砂地に松を植えると海岸は美しい松林となり「緑が浜」と名付けられました。
- ④ 関ヶ原の戦いに敗れた毛利氏が、広島から萩に移ると、宇部は永代家老の福原氏が治めるようになりました。かんがい用に常盤池をつくり用水路をめぐらし、また鶴ノ島開作をつくったり、真締川の流れをまっすぐにしたりして、お米がたくさんとれる土地に変えていきました。
- ⑤ 1675年ごろ、山陽道の宿場町として栄えていた船木の住民は、たき木のかわりに石炭を燃やしていましたが、それを旅人が記録しています。
宇部村では、1698年、かんがい用のため池として常盤池に本土手が築されましたが、池の底に石炭を掘った穴が見つかっています。
- ⑥ 宇部村では農閑期に田の下を掘っていましたが、たくさんの水がわき出て困っていました。そこで向田九十郎兄弟が「南蛮車」を発明したり、船大工和田喜之助が水や土を防ぐ「蒸し柵」を発明し、石炭をより深くまで掘ることができるようになりました。
- ⑦ 1872(明治5)年、学校教育に関する制度ができると各地に小学校が開校しました。宇部村では宗隣寺内に最初の小学校ができ、のち教念寺に移り、翌年、中尾に新しい校舎ができました。厚狭郡の中心だった船木村では毛利勅子が校長となり船木女兒小学が開校されました。

絵本イラスト20場面 (資料2-2)

- ⑧ 塩田や蒸気船の燃料として大量の石炭が必要になってきました。明治になり、村の石炭を掘る権利を奪われましたが、イギリス留学から帰国した福原芳山ふくばらよしやまが買い戻しました。自由に石炭が掘れるようになると、宇部炭鉱会社が石炭鉱区を統一、のちに宇部共同義会に引き継がれた。
- ⑨ 島の渡邊祐策は、明治の終わりころ、沖ノ山炭鉱を開発し成功すると、安全な電気が使えるように電気会社を作ったり、衛生的な水が飲めるように上水道を整備し、宇部港や道路の整備、鉄道も作りました。死後、村野藤吾の設計で渡辺翁記念会館が建てられ国の重要文化財に。
- ⑩ 明治の中頃に6,500人だった人口は、他の地域から炭鉱で働くために移ってきた人たちがどんどん増えていきました。大正に入ると40,000人を超え、とうとう1921年(大正10)、11月1日、村から町をとびこえて市になりましたが、これはとてもめずらしいことでした。
- ⑪ 大正時代、常盤湖ほとりの畔は、料亭が建ちお金持ちが集まる場所でした。桜がたくさん植えられ、やがて宇部共同義会や渡邊祐策らが宇部市に寄付をしたので、みんなのときわ公園となりました。今では、湖水ホール、世界を旅する植物館、ときわ動物園などの施設ができています。
- ⑫ 1945年(昭和20)の夏、戦争で宇部市の中心部は空襲を8回も受け、焼け野原になってしまいました。しかしすぐに復興し微粉炭びふんたんを燃料とした工場の煙突からばいじんを出し、「世界一汚れたまち」とまで言われましたが克服し、UNEPからグローバル500賞を授与されました。
- ⑬ 1957年(昭和32)、常盤通りを白鳥20羽を乗せた車がパレードしてときわ公園にやってきました。白鳥は順調に増えて大勢の人が見に来るようになりました。1985年、国内初の人工ふ化によりモモイロペリカンのカッター君が誕生し、人懐っこいため人気者になりました。
- ⑭ 青少年を健全に育てたいという思いから「街に彫刻を飾る運動」が起き、1961年(昭和36)ときわ公園で、第1回野外彫刻展が開催されました。翌年、向井良吉による鉄の廃材を使った巨大な彫刻「蟻の城」が完成、今でも彫刻の丘のシンボルとなっています。

絵本イラスト20場面 (資料2-2)

- ⑮ 1967年(昭和42)、宇部興産宇部鉱業所が閉山し、市内の炭鉱はすべて無くなりました。1969年(昭和44)、ときわ公園に日本初の石炭記念館が開館し炭鉱の歴史を学ぶことができます。また閉山して10年後、外国から安い石炭を大型船で運び貯蔵する沖の山コールセンターができました。
- ⑯ 2004年、宇部市は古い歴史を持った楠町と合併して新しい宇部市になり、市の木はクスノキ、市の花はサルビアとツツジに決まりました。学びの森くすのき、楠こもれびの郷もオープンし、万倉と厚東を結ぶ新しい道路も完成しました。
- ⑰ 2017年、JAXAの西日本衛星防災利用研究センターが宇部市にできたことで、山口大学の6つの学部から参加したメンバーで、衛星データを活用した研究チームができました。宇宙技術を私たちの生活の中で身近に利用できれば防災、環境など地球を守る活動ができそうです！
- ⑱ 2018年、SDGs未来都市に山口県ではただ一つ宇部市が選ばれました。「人々が幸せに暮らし続けられる社会をつくろう」という17の国際目標がありますが、そのイメージとして「生きる力を育み子どもの未来が輝くまち」があります。
- ⑲ 小学校の夏休みに先生が望遠鏡で見せてくれた土星に感動したことから天文学者になりたかった本庶佑ほんじょたすくさんが、「多くの人々の命を救える」と医学部に進学。2018年、がんの革新的治療法を切り開いた業績でノーベル生理学・医学賞を受賞、翌年、宇部市民栄誉賞が贈られました。
- ⑳ 2020年版「住みたい田舎」ベストランキング総合部門第1位！シニア部門でも第2位！（人口10万人以上の大きなまち）
2021年、宇部市は100歳になりました！SDGs達成に向けて、誰もが誇りを持って住み続けたい魅力的なまちをつくりましょう！